

広島市の下痢症患者由来サルモネラの血清型別 (2010 年)

生 物 科 学 部

は じ め に

広島市内で発生した下痢症の状況を把握するため、当所では、分離された菌株について疫学的な解析を続けている。

2010 年に分離されたサルモネラ菌株(チフス菌を除く)の血清型別および薬剤感受性試験の結果について、その概要を報告する。

方 法

1 材料

2010 年に分離されたサルモネラ 18 株を供試した。

2 血清型別

市販のサルモネラ診断用免疫血清(デンカ生研)を用い、常法に従い血清型別を行った。

3 薬剤感受性試験

薬剤感受性試験は 1 濃度ディスク法(BD)で測定し、ABPC, SM, CP, TC, NA, KM の 6 薬剤を用いて NCCLS 法により実施した。

表 1 年別サルモネラ分離状況

O 群	年別分離菌株数			
	2007	2008	2009	2010
04	12	8	2	6
07	6	12	0	3
08	2	3	1	1
09	8	6	4	7
016	0	0	0	1
計	28	29	7	18

結 果

1 サルモネラの分離状況

過去 4 年間の分離株数を表 1 に示した。2007 年 28 株, 2008 年 27 株であったが, 2009 年は 7 株と減少し, 2010 年は 18 株と増加した。また, 過去 3 年間に検出されなかった 016 が検出された。

2 血清型別検出状況

血清型別検出状況を表 2 に示した。分離された 18 株は 8 種類の血清型であった。*S. Enteritidis* が 7 株(38.8%)と最も多かった。

3 薬剤耐性

薬剤耐性パターンを表 3 に示した。ABPC と CP の 2 剤耐性が 1 株, TC 単剤耐性株が 2 株認められた。2 剤耐性株は *S. Typhimurium*, 単剤耐性株は *S. Virchow* と *S. Harder* で, 残り 15 株は感受性であった。

謝 辞

この調査にご協力いただきました保健所およ

表 2 血清型別検出状況

血清型	分離菌株数
04 <i>S. Typhimurium</i>	4
<i>S. Paratyphi</i> B	2
07 <i>S. Virchow</i>	1
<i>S. Thompson</i>	1
<i>S. Braenderup</i>	1
08 <i>S. Harder</i>	1
09 <i>S. Enteritidis</i>	7
016 <i>S. Hvittingfoss</i>	1
計	18

表 3 薬剤耐性パターン

耐性パターン	TC	ABPC/CP	感受性	計
<i>S. Typhimurium</i>		1	3	4
<i>S. Paratyphi</i> B			2	2
<i>S. Virchow</i>	1			1
<i>S. Thompson</i>			1	1
<i>S. Braenderup</i>			1	1
<i>S. Harder</i>	1			1
<i>S. Enteritidis</i>			7	7
<i>S. Hvittingfoss</i>			1	1
計	2	1	15	18